

2022 年度 夏期集中講義のご案内

(文学部文化史学科設置科目、**春学期登録**、2単位)

文化史特論 (5)

——古代日本と中国——

(アジアのなかの国家形成、国風文化の国際性)

榎本 淳一 先生

場所：今出川校地 (教室は追って掲示する)

日時：8月23日(火)～26日(金) 2講時～5講時 (最終日4講時まで)

文学部文化史学科では夏期休暇中に文化史特論(5)を**集中講義**として開設する。受講する場合は履修要項とシラバスを参照して、**春学期科目として登録**していただきたい。

今年度出講をお願いした榎本淳一先生は、現在の日本古代史学界を牽引するリーダー的存在である。日唐律令比較研究、日中文化交流研究では日本の第一人者であり、**中国の学術、文化、仏教、典籍の流入が日本文化を形成していく具体的な様相と過程**を壮大な視野のもとに証する手法は、他の追随を許さない。近年では、**近代日本がフィクションとして生み出した「国風文化論」の見直し**を進め、**国風文化の有する驚くほどの国際性**を描き出す研究成果は、「**文化の形成の位相**」をどう捉えるかという歴史学の根本課題の解明でもある。

こうした貴重な成果の吸収は日本の多くの大学の求めるところで、東京大学・早稲田大学・学習院大学・法政大学などの関東の多くの大学からは繰り返し出講を依頼され、多くの若手研究者を指導されてきたが、このたび**集中講義という形式のおかげで関西にも出講していただくことができた。非常に貴重な千載一遇のチャンス**である。

歴史と文化を政治史に還元させずに総合的に描き出す研究手法は、本学文化史学科の理念に通じるが、関西と関東とでは歴史認識や分析方法で異なる点も多く、東大系の学統を体現する榎本先生に接することで、みなさんの**研究方法や歴史観を見直す契機**ともなるだろう。

今年限りの貴重な機会、**古代史・文化史・仏教史の学生**はいうまでもなく、**中世・近世・近代を専攻する学生**、さらには**東洋史、国文学、法制史などの幅広い学生**にも大きな刺激となるテーマである。積極的な登録をお勧めする。文学部他学科や他学部で関連諸学を研究している熱意ある学生にも、この機会を生かすべく登録・聴講を呼びかけたい。

[榎本先生のご著書・ご論文]

榎本淳一『唐王朝と古代日本』(吉川弘文館、2008年)

榎本淳一「国風文化」(『歴史と地理』502号、1997年)

榎本淳一「遣唐使と通訳」(平川南編『文字と古代日本2文字による交流』吉川弘文館、2005年)

榎本淳一「日本古代における仏典の将来について」(『日本史研究』615号、2013年)

榎本淳一「龍門広化寺善無畏三蔵真身考」(氣賀澤保規編『隋唐洛陽と東アジア』(法蔵館、2020年)

榎本淳一『隋書』倭国伝について」(大山誠一編『日本書紀の謎と聖徳太子』平凡社、2011年)